掲示板

本舘玄関 リニューアル 工事 完了

工事期間中に来舘された皆様
ご不便ご迷惑をお掛けいたしました

ミード社会舘が建設された時から使用していた玄関扉の全面入替工事を行いました。以前の玄関ドアは手動扉の幅が広く、自動扉が狭い状況でした。

昨年から新型コロナウイルス感染予防対策として、手動扉は接触が頻回になるため閉鎖し、非接触の自動扉で出入りを行っていましたが、自動扉の幅が狭く出入りがしにくい状況が続いていました。又、出入り口の高さも低いため、背の高い方はかがんで出入りしている状況でした。

大阪府の新型コロナウイルス感染対策に対しての補助金があり、この補助金を利用させていただき、玄関扉の入替工事とサーマルスクリーニングカメラ（自動体温測定装置）を購入させていただきました。

以前の手動扉と自動扉の位置が逆になったので、戸惑う方も時々見受けられますが、利用される方からは「幅が広くなって出入りがしやすくなった」「開放的で明るくなった」等、好評をいただいています。

外側から中側が丸見えなので、近々、扉の中央部にフィルムを張り、夜間はスクリーンカーテンを下せるようにする予定です。

サーマルカメラ（自動検温機）設置

巣立ち ～ミード保育園～

2021.3.13 卒園式が行われました

卒園式が3月13日（土）に執り行われ、30名の子ども達がミード保育園を巣立ちました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、色々と対策を取らなければなりませんでしたが、無事に子ども達一人一人が卒園証書をもらい、自分の夢を皆の前で大きな声で言う事ができました。保育園に入園した頃はまだまだ小さくて、初めて話した時、歩いた時、毎日、泣いていた子が笑ってお母さんに「行ってらっしゃい！」と言えた時、先生大好き！と甘えてくれた事、友達と大笑いする姿…たくさんの子ども達の姿が思い出され、頼もしく巣立って行く事に、職員一同、感動させられました。ミード保育園を卒園しても、神様に守られて子ども達がすくすく育っていく事を祈っています。　（ミード保育園　保育士　山下　里奈）

一般寄付・後援会・ボランティア基金のお願い

皆様から頂戴しましたご寄附は、送迎車両の整備・購入準備金、保育園施設の補助等、大切に使わせていただいております。また、ボランティア基金は、カフェとまり木の運営他、ボランティアの方々のために使わせていただいております。

社会福祉法人キリスト教ミード社会舘

後援会会長　金津　博直
理事長　岩佐　美奈子
舘　長　吉岡　健一

寄付金・後援会賛助会員費・申込口座名

会費　年額　1口　5,000円何口でも可）
郵便振込口座　00900－2－47186
加入者名義　社会福祉法人キリスト教ミード社会舘

（編集制作：前田）

皆様方からのご協力、お待ち申し上げております

ミードだより

No.158
2021年4月1日
題字　金津　博直

編集・発行　社会福祉法人 キリスト教ミード社会
大阪市淀川区十三元今里一丁目１番５２号
☎　（06）6309-7121　FAX (06)6309-7123

「繋がること」

地域活動部　部長　前田　賢治

新型コロナウイルスが感染拡大している大変な状況の中ですが、私は昨年末に大阪から神戸に引越を致しました。母がひとりで住む実家から歩いて5分のところです。数十年振りに地元に帰った訳ですが、昔私が住んでいた頃の街は、「団地族」「ニュータウン」ともてはやされ、若い家族が多く住む人口数万人の活気あふれる住宅街でした。今では街全体が老朽化し、かつての子ども達は独立してその多くは街を出て行き、残された親世代は高齢者と呼ばれる年になりました。

坂だらけの街で、昼間歩いている人は少なく、そのほとんどが70代以上の方々です。良く言えばとても静かで穏やかな街、悪く言えば閑散とした寂しい街、というのが引越したての私の印象でした。かくいう私も還暦間近で、日に日に衰えていく身体に少しでもあらがうためにトレーニングジムに行っているのですが、街の中にあるジムに行ってみてとてもビックリしました。街の様子からは想像できないぐらい、なんとお元気な高齢者の多いことか！それもバッチリ派手なトレーニングウェアに身を包み、リズムに合わせて踊ったりバーベルを持ち上げておられる。ここに来られている皆さんは、きっと「緊急事態宣言」の自粛生活やそれに伴うストレスなど、さほど大きな問題ではないのでしょう。マスクは着けておられるものの、三密なんてどこ吹く風、あっちでもこっちでも男女交えての井戸端会議が繰り広げられていて、さながら大きな社交場のようです。「会議」の中では、近況報告や病気の話、どこそこの病院がどうとか孫がどうとか、情報交換がなされていました。皆さんとても楽しそうです。

高齢化した街にはその街なりに、そこに住む人たちの独自のコミュニティがしっかりと作られ、インフォーマルな資源としての役割を担っていることを知りました。街が老朽化し、人が高齢になろうとも、長年生活してきた馴れ親しんだ街で自分らしく逞しく人生を謳歌している人たちがたくさんおられることに、超高齢社会のあらたな一面を見た思いがします。考えるに、「街の老朽化」という表現は少し違うような気がしてきました。メタモルフォーゼ（変身、変化）とでも言うべきでしょうか。

しかしながら、多くの方にとっては、コロナ禍での自粛生活が長期化することで運動不足となり、特に高齢者の運動不足によるサルコペニアやフレイルが大きな問題となりつつあります。また、運動不足により体重や血糖値コントロールが上手くいかず糖尿病の悪化が懸念される方もいらっしゃいます。また、コロナ禍は、人と人との繋がりをも希薄にし、新しい人との出会いや友情を深め合うということすら出来にくい社会に変えてしまいました。一方で、私が仕事で関わる就労移行支援事業所（障がいを持つ方が就職に向けて訓練や準備をするところ）では、受け入れてもらえる実習先や就職先が減ったことで、更に障がい者が働きにくい状況になっていると聞きます。コロナ禍が社会を変え、生活のあり方を変えざるを得ない状況となっている今、福祉に携わる私たちは、これまでのやり方ではない新たな福祉を新たな社会の中で創出していく必要に迫られていると思います。

ミード社会舘は、高齢者や障がい者の地域での在宅生活を支援しています。自粛生活で家におられる方々と私たちが繋がり、そして、私たちがまた別の方々へと繋いでいく。希薄になりかけている地域の繋がりをこのような地道な活動を通して創っていく。このような役割を私たちは実践してきましたし、そしてこれからも続けていくことが、まずは大切な第一歩のように思います。弊舘では介護予防運動教室（ポレポレ倶楽部）もこれまで通り開催していきます。私の街のトレーニングジムのように、多くの高齢者の健康維持と地域の「社交場」としての役割を担っていけるようなところにしていきたいと思っています。

心にソーシャルディスタンスは必要ありません。ご利用者と私たちが、そして地域にお住まいの方々が、更に心と心が「密」に繋がっていけるよう日々の活動を実践していきます。

（ポレポレ倶楽部の様子）

「コロナ禍での訪問」

ミード居宅介護支援事業所
ケアマネジャー　砂地　康清

新型コロナウイルス感染拡大がより身近に感じ始めた昨年春から現在に至るまで、ケアマネジャーとしてご利用者に対し支援させていただく中、改めて今まで普通に訪問出来ていた事や、ご本人・ご家族のご意向を直接確認出来ていた事、介護保険サービスを普通に活用できていた事等が『当たり前』ではなかった事を痛感させられました。

ケアマネジメントを行う際、途中で分からなくなった場合は、原点回帰として『本人に聞く』を心がけてきましたが、それが断たれてしまう現状に不安を抱えながら進んできました。感染拡大防止の観点にて、やむを得ずお電話で状況確認する中で、ご本人・ご家族からは、コロナウイルス感染の不安と同時に、現状のサービスを継続しないと生活を維持出来なくなるジレンマがある事を多数ご意見いただきました。

令和２年４月７日に緊急事態宣言が出た時の話ですが、未知のウイルスに対しての対応として、ショートステイがやむを得ずロングショートステイでの対応となった利用者がおられました。利用者本人から「夫と離れるのよね、辛いね。仕方ないのよね。ケアマネが悪いわけではないし、誰も悪くない。頑張ってロングショートステイ先で生活します。早く元通りになるといいね」と言われた際、私は申し訳ないとしか返事できず、本人と目を合わす事が出来なかった事を覚えています。改めて「緊急事態である」という現実を突きつけられた瞬間でした。

２度目の緊急事態宣言が解除された令和３年２月 28 日以降、感染予防策に十分注意しながら訪問を再開しています。ご本人、ご家族からは「やっぱり直接お会いして話し出来ると安心しますね」と言われます。今まで当たり前になっていた訪問、ご本人、ご家族にお会いしての意向確認がいかに大切であるかを改めて実感させられています。又、自宅で介護の話し合いを行える事が、いかに有難いものであるのかも実感しています。未だコロナ禍の中ではありますが、その中であってもご本人・ご家族の不安を少しでも解消できるように支援を継続していきたいと思っています。

●大阪コミュニティワーカー専門学校報告

「留学生を受け入れて４年が経ちました」

大阪コミュニティワーカー専門学校　木村　眞佐子

2016 年 11 月に入管難民法の改正案が成立したことにより、2017 年度よりベトナム人 33 名、中国人２名の合計 35 名留学生が、大阪コミュニティワーカー専門学校の学生として入学することになりました。

初めて外国人を学生として受け入れるあたり、英語もろくに話せないのに・・と、大きな不安を感じましたが、「日本語学校を勉強している真面目で優秀な学生がたくさん入ってくる」と聞いて楽しみにしていたのを覚えています。

2017 年４月、留学生を迎えていよきよ学校が開始。いきなりつまづいたことは、9：30 の授業開始時間に学生が揃わない事です。よくてチャイムと同時に滑り込む、5 分～10 分は当り前のように遅れてきて「遅刻していない」と言い張る文化、価値観の違いに驚きました。また、授業を進めていくうちに、日本語での日常会話はスムーズであっても読んだり書いたりすることは難しく、私たちが思っている以上に日本語が理解できていないのだという事がわかってきました。90 分の授業の中で、ここまで進めようと思っているところまでなかなか授業を進めることが出来ず、分かっていないだろうなぁと思いながら授業を進行してしまったことが何度もありました。

他にも、生活での問題、アルバイトでの問題など、学校の事のみならず多岐にわたって様々な出来事が発覚し、その都度対応に追われる毎日でした。

今では、2017 年入学生は無事に卒業し、留学生を迎えての学校生活も４年を過ぎようとしています。留学生もベトナム、中国以外にインドネシア、ネパール、ミャンマー、スリランカ、韓国、香港と様々な国の学生が入ってきています。これからも今までと同じように思いもよらない問題が発生してくるでしょう。私たちの価値観を押し付けるのではなく、日本での習慣や価値観も大切にしながら柔軟に対応できるように日々勉強し続けていきたいと思います。

2021.3.16 卒業式 ～答辞

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日この頃、私達二十八期生は卒業の日を迎えました。本日、お忙しい中、私達のためにご臨席くださいました皆様、心より感謝いたします。皆様から心温まるご祝辞や激励のお言葉をいただき、卒業生を代表して御礼申し上げます。

思い起こせば三年前、私達は年齢も出身国も違う仲間と共に介護福祉士を目指しこの大阪コミュニティワーカー専門学校に入学しました。日本語での授業は難しく、授業のスピードも速く、覚えなくてはいけない言葉も増えました。意見や質問をしたい時、実習記録を書く時、頭の中にあることを日本語で表現することが出来ず、心が折れそうになりました。食文化の違いもあり、辛いことがあった時、家族にテレビ電話をかけたくなりました。でも、弱音を吐くことで家族に心配をかけたくありませんでした。「帰っておいで」と言われると、本当は帰りたい気持ちがあっても、「大丈夫」って家族を安心させる言葉が必要になります。

介護施設でのアルバイトでは、利用者様の「ありがとう」その一言、その一つの笑顔で、私達の心は潤い、大きな励みになりました。

実習記録の大変さにも悲鳴を上げましたが、指導者の方々や先生方、友達に支えられ、何とか乗り越えることが出来ました。切磋琢磨できる志の高い友達、仲間、師と出逢えました。これは一生の宝物です。

私達卒業生一同、学校で学んだ知識や技術、介護観にさらなる磨きをかけ、精進して参ります。

後輩の皆様、残りの学校生活でも様々な困難にぶつかり、国に戻りたいと涙することもあるでしょう。その時はこう自分自身に尋ねてみてください。「日本にきたのはなぜ?」きっと心に力を取り戻すことが出来ます。私は皆さんに自分の目標への挑戦をやり遂げてもらいたいと思います。

2021.3.16 門出を迎え

（答辞を読むリュ ビック クアンさん）

大阪コミュニティワーカー専門学校
３年生主担任　山亀　晋也

桜のつぼみがふくらみ、開花を迎えようとしている春のこの良き日に、コミュニティケア科Ⅰ部 28 期生卒業証書授与式が新型コロナ感染防止対策のもと、挙行いたしましたことをご報告させていただきます。

28 期生は 35 人のうち、33 人がベトナム、ネパール、インドネシア、韓国からの留学生でした。慣れない土地で母国語ではない言語での就学は苦労があったと思います。学費及び生活費のためにアルバイトとの両立をすることも容易ではありません。さらに今年度は、新型コロナ感染拡大の影響から、母国にかえることができないという大きな不安があったことでしょう。そうした苦境に耐えた 28 期生は、特別な輝きを纏って、この日、門出を迎えました。

介護福祉士養成施設における卒業証書は、介護福祉士として職務を全うする力を証明するものです。本校がこれまで輩出し、現在、介護現場で活躍している諸先輩たちと同様の可能性が確約されています。資格者証に国籍の区別はありません。一人の介護福祉士としての活躍をぜひ期待してください。

介護実習やアルバイトとして受け入れてくださった福祉施設の皆さまから、これまで多大なるご協力をいただきましたことを、心より御礼申し上げます。